

花こぼるる農業公園

▼滋賀県農業公園ブルーメの丘



1. 宇宙有名の地

面積670km²の琵琶湖は滋賀県全域の1/6を占める日本最大の湖で、平時約270億トンの貯水は京都・大阪・兵庫3府県1,400万人に供給されるばかりでなく、豊かな水産資源を育み、農地を潤し、物資の流通・人の往来の路としても用いられてきました。風光明媚な湖は、また古代から文章・詩歌の題として賞讃され、数多くの絵画としても残されています。室町中期に近江八景が選定されていますが、江戸時代に安藤広重が浮世絵版画として表わしたことで有名になりました。昭和25年(1950)に琵琶湖を中心とした一帯が国定公園に指定され、滋賀県ではこれを記念し、新たな八景を選ぶことを企画し、公募によって琵琶湖八景が選ばれています。

両八景に選定された場所は湖南と湖北に多く、広い平地を背後にひかえる東近江地域では、僅かに近江八幡の水郷が載っているだけです。しかし、この地は古くから水田がひらけ農業が栄え、また京と東国とを結ぶ交通の要衝でもあり、藤原氏の伝記「家伝」の一節にも次のように述べられています。

「近江国は宇宙有名の地なり。地広く人衆国富み給はる。東は不破(岐阜県)に交はり、北は鶴鹿に接す。南は山背に通じこの京邑に至る。水海清くして広く、山木繁くして長し。その墟は黒墟にして其の田は上々なり。水旱の災ありと雖も嘗て不獲の恤なし」。

2. 農間の余業として商に励む

この地はまた、わが国近世から現代にかけて経

済の近代化に貢献した近江商人を輩出したところでもあります。近江商人は主として東近江の、現在の近江八幡市、日野町、五個荘町などからの出が主で、これらの土地の産物である蚊帳、麻布、葉などのほか、京大坂などで集めた呉服、綿などを関東、東北に売りさばいていました。天秤棒をかついだスタイルは有名ですが、初期には人力のほか馬に荷を載せ、数人、十数人が隊をつくって険しい道を進んだこともあり、途中で盗賊あるいは他地区の商売仇に荷を狙われることもしばしばだったそうです。荷のさばき先からはその土地の産物を仕入れ、それを京大坂にもどって売る、いわゆる往復商売をしていましたが、次第に各地に出店を設け、情報収集と仕入れ、販売の拠点として有効に流通網をつくり、ひろげてゆきました。

こんにち近江商人に学ぶべきものは多々ありますが、その第一は堅実な生活態度でしょう。「商人」とはといっても、もとは農家の出身で、商はあくまでの農間の余業である、との精神が貫かれ、衣類は質素な木綿もの、食事も自給の穀類と野菜が中心でした。五個荘町にある「近江商人博物館」には当時の食事の内容が展示されていますが、祝いの日以外はキビ、アワ、アズキ、サツマイモが入ったごはんは梅干と番茶が付いたくらいで、エンドウ、ダイズ、ニンジン、ゴボウ、サツマイモ入り混ぜごはんは上等の類でした。

成功した近江商人たちは数々の家訓を残しています。そのいくつかを挙げますと

「しまって、きばる」(儉約をはかり、よく働くこと)。

「三方よし」(売り手、買い手、世間それぞれがよくなる)。

「おごれる者久しからず」。

「富を好しとし其の徳を施せ」(商をするうえは豊かになることを目指すが、社会貢献も忘れてはならぬ)。

「利は勤むるに真なり。人生は勤めるに在り。勤は利の本なり。よく勤めておのずから得るのは真の利なり」。

3. ジャガイモへの深い思い入れ

水田がひらけ、また近江牛に代表される畜産が

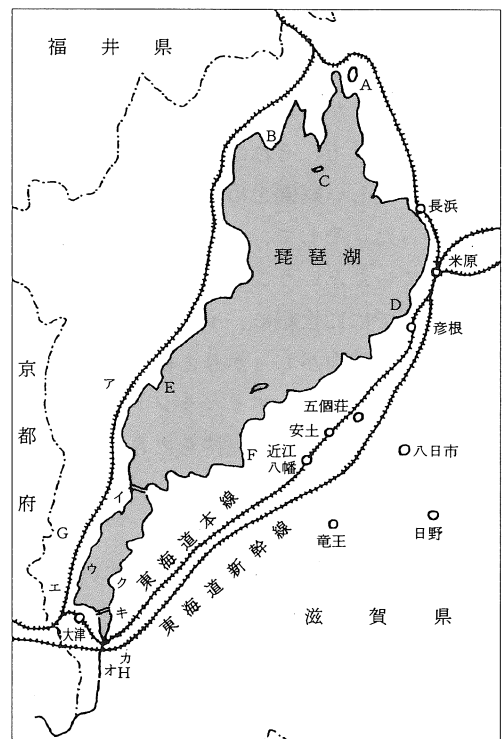
盛んなこの地方では、稲作よりの収入が50～70%、畜産のそれは20～40%となっていて、その他の作物、野菜類のシェアは大きくはありませんが、高度成長時代に入り名神高速道路が開通し、また自動車、繊維関連の工場も進出して次第に都市化し、それにつれて丘陵地には果樹園がひらけ、農村振興策として農に親しむための施設がつけられました。

蒲生郡日野町の滋賀農業公園ブルーメの丘はその一つです。「ウルグアイラウンド農業合意関連対策」として平成8年（1996）に農林水産省の補助を受けてつくられました。設立されてからまだ年月は浅いのですが、京阪神に近いこともあって休日には賑わいます。ブルーメ（blumen）はドイツ語で花を意味し、園内に一步入ると、あふれるばかり咲き乱れる美しい花の歓迎を受けます。ドイツの農村を模したこの公園では、花壇、温室など花を鑑賞できるほか、パン・ソーセージの手造り、搾乳・卵拾いの体験ができ、また地ビール工場もあります。乗馬したり羊の追込みの見学など、動物に接することもでき、また池にはボートが浮かび、園内を走る汽車もあって、親子連れが一日楽しく過ごすことができます。

売店では、出来たてのパン、ソーセージ、ビール、アイスクリーム、お菓子のほか、ドイツの衣類、装身具、玩具などを買うことができ、園内のレストランではドイツ料理を味わうこともできます。メニューに並ぶ数々の料理のうち、ソーセージの添えられたハンバーグステーキを注文しました。ハンバーグはボリュームがあり、味は他のレストランのそれと大差はありませんが、ソーセージは本場の技術で造られただけあって、肉の柔らかさと香料のきき方が何ともいえず、感嘆しました。彼の国ではソーセージには多くの種類があり、寒い冬には日本のラーメン屋台のように、街頭で売っているそうですが、温めてからしを塗り、パンの一切れと食べるそれは、ドイツ人がもっとも郷愁を感じる食物の一つとされています。添えものの、蒸してサイの目に切ったジャガイモにはベーコンの味がほどよくしみ込み、これも本場のドイツ式の食べ方なのかと思いましたが、フライドポテトは細く切ってあってカリッとした歯ざわりで、市中のハンバーク店で出会うような太くてベチャッとした感が全くありません。たずねてみると、肉

の付け合わせも、フライドポテト用も、いずれもこの園内の畑で昨年収穫されたもので、それを消耗させることなく次の春まで保たしているそうです。ドイツ料理につきもののジャガイモに対する思い入れの深さにあらためて感銘しました。

この農業公園が、少しでも多くの人に農村を理解し、親しむ場になってくれれば、と願いつつ、やや苦が目の地ビールで赤らんだ頬を風に吹かせながら、ぼつぼつと咲きはじめたバラ園を散策しました。（編集部）



近江八景

琵琶湖八景

- | | |
|----------|---------------|
| ア. 比良の暮雪 | A. 新雪・賤ヶ岳の大観 |
| イ. 堅田の落雁 | B. 暁霧・海津大崎の岩礁 |
| ウ. 唐崎の夜雨 | C. 深緑・竹生島の沈影 |
| エ. 三井の晩鐘 | D. 月明・彦根の古城 |
| オ. 石山の秋月 | E. 涼風・雄松崎の白汀 |
| カ. 瀬田の夕陽 | F. 春色・安土八幡の水郷 |
| キ. 粟津の晴嵐 | G. 煙雨・比叡の樹林 |
| ク. 矢橋の帰帆 | H. 夕日・瀬田石山の静流 |